



変化と対応

令和8年1月9日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

変化という今日の現実に対してその対応は唯一未来の実現を与える選択である。これらは企業において現実への理解を求め未来における正しい自己の確立をその選択として要求されるのである。

これらは現実への正しい理解が未来への予測を与え、それが自らの選択を許容し未来の実現を可能とするものである。

これらは既存現実に対してそれらが崩壊し新たな未来を模索する今日正しい企業哲学における選択と行動がその可能性の現実かを与えるのである。

これらは現実と乖離した判断や視点は未来を失う以外与えないものであり、それらはより現実的に現実への理解を求め、適切な判断と行動において自己現実の育成を求めることが正しい選択となるものである。

これらは変化に対しての理解、新たなルールや基準への理解と認識を基盤として自己を新たに要求することは、既存現実に惑溺しない正しい判断を与えることができるのである。

これらはもっともなフレキシビリティは、現実が付し、則することができるのである。

より優れることはさらなる現実の創造を行うことであり、それら創造性は進歩性において独自性を行うためには振興された理解と知識を要求するのである。

これらは正しい企業哲学の創造を与える基盤であり、現実との乖離性でない正しい認識と判断においてこれらが要求されるのである。

これらが健全な企業経営の実現であり、現実と乖離せず正しい理解を基盤として行動が企業における可能性の実現を与えることができるのである。

経営者は決して現実と乖離してはいけない。また企業が社会性と健全性を行うことは正しい企業風土の育成を実現することなのである。